

科目「簿記」学習指導案

学 校 名	茨城県立坂東総合高等学校	指 導 者	教諭 ○○○○○○
指 導 日 時	平成 27 年 6 月 4 日 (木) 第 限	場 所	
対 象 生 徒	情報ビジネス 科 2 年 情報ビジネス 組・コース	20 人	
科 目 名	簿記	使用教科書	新簿記 実教 出版

1 単元 (題材) 名

現金・預金などの取引

2 単元 (題材) の目標

- ・簿記上, 現金として扱われるものには, どのようなものがあるかを理解させる。
- ・現金に関する記帳方法を理解させる。
- ・現金出納帳の役割とその記帳ができるようにする。
- ・現金過不足の意味, 記帳方法について理解させる。
- ・当座預金に関する記帳方法, 当座借越の意味および記帳方法について理解させる。
- ・小口現金の意味及び記帳方法について理解させ, 小口現金出納帳の記入方法を習熟させる。

3 単元 (題材) について

(1) 教材観

簿記上の現金の入金と出金及び当座預金の預入れと引出しなど, 現金と当座預金に関する基本的な取引の記帳方法を習得させる。また, 現金過不足, 当座借越, 小口現金及びその他の預貯金の記帳方法を習得させる。

(2) 生徒観

情報ビジネス系列は多くの生徒が就職をするため, 資格取得の意識が高い。簿記の授業では1月の全商簿記検定3級の取得を目標としており, 多くの生徒が意欲的に学習している。しかし, 基本的な読み書きや, 考えることが苦手であり, 先週行われた前期中間考査においては, 資産, 負債, 純資産, 収益, 費用の理解ができていない生徒も見られた。また, 数名の生徒は, 他系列を希望しながらも人数制限のため, 情報ビジネス系列の授業を受けている。そのため学習意欲が低く, すぐに関係のない話が始まってしまい, なかなか授業に集中できない現状がある。

(3) 指導観

現金, 現金過不足, 当座預金及び当座借越の記帳方法については, 教科書, 問題集を中心に演習させて理解させる。また, 現金, 当座預金, 当座借越が, 簿記の5つの要素のどれに当てはまるのかを, 資産と負債の意味を確認しながら指導する。その際には, 「会社に必要なものは何か」などを生徒に問い, 生徒が自らイメージして, 考える力を身に付けさせる。小切手については, 生徒に馴染みのないものなので, 教科書の口絵を用い, そのメリットを考えさせる。また, 現金出納帳などの補助簿について, 先に学習している主要簿との関係について, 具体的例を用いて, 生徒に理解させる。

小口現金については, 庶務係, 会計係など実際の企業に存在する部署が登場するため, 簿記の知識だけでなく, 企業の分課制度など, 企業の形態についても触れながら指導する。

4 単元 (題材) 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
現金, 当座預金等を用いた取引の記帳がどのように行うかについて関心をもち, 自分から進んで問題演習に取り組もうとする。また, 発問に対して, 積極的に発言をしている。	取引を記帳する際に, なぜこのように仕訳をするのかなどを, 考えている。また, 補助簿の役割と必要性について, 主要簿の関係を踏まえて, 考え, 表現することができる。	現金, 当座預金, 現金過不足, 当座借越, 小口現金について, 各取引の仕訳ができる。各取引から, 現金出納帳, 当座預金出納帳, 小口現金出納帳へ, 正しく記帳することができる。	簿記上で扱われている現金について理解できている。現金, 当座預金, 当座借越, 小口現金について, その意味と各取引の記帳に関することを身に付けている。補助簿の必要性と, 主要簿の関係について理解している。

5 指導と評価の計画 (学習計画)

時	主な学習活動	指導及び留意点	関	思	技	知
2	現金、現金過不足の仕訳と現金出納帳への記帳について学習する。	小切手の説明では、実際の小切手を提示する。取引の仕訳を行う際には、簿記の5つの要素を意識して指導する。	○			○
2	当座預金と当座借越について学習する。	小切手のメリットについて生徒に考えさせる。当座預金以外の預金方法にふれて、指導する。	○	○		
1	定額資金前渡法の流れと、取引の処理について学習する。	仕訳や小口現金出納帳		○	○	
1	単元のまとめ			○		○

6 本時の学習

(1) 本時の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・簿記で現金として扱われるものについて理解する。 ・現金及び現金過不足の取引について、仕訳することができる。 ・補助簿の意味を理解し、正しく記帳することができる。

(2) 準備・資料等 (学習に必要なワークシート, 教育機器, 資料等を記入)

教科書 (新簿記) 問題集

(3) 本時の展開 (導入・展開・終末)

時間	学習活動・内容	指導上の留意点 (◎評価)
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・発問に対する答えを考えながら、現金として扱われるものについて理解する。 ・本時の目標を板書する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現金という言葉聞いて何をイメージするか発問する。 ・本時の目標を板書する。 ◎積極的に発問に答えようとしている。 【関心・意欲・態度】 ・上記の発問をしたときに、小切手がどういうものかわからない生徒が殆どであると、考えられるので、実物の小切手を用意する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を使用して現金が増加したときと、減少したときの仕訳を確認する。 ・黒板に例題を書いて、実際に問題を解く。 ・現金出納帳の記帳方法について、ワークブックを使用して理解する。 ・教科書を使用して現金過不足の意味と仕訳方法について理解する。 ・黒板の例題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例題を解かせる際に、具体的な商品などを出して、イメージしやすくさせる。 ・仕訳の際には、5つの要素を意識させて解くように指導する。 ・現金出納帳がこれまで学習してきた仕訳帳、総勘定元帳とどのように違うのかを、主要簿と補助簿という用語を用いて説明する。 ・現金過不足の金額について、帳簿か実際有高どちらに修正するのかを、意味を考えさせながら理解させる。 ◎現金、現金過不足の取引について理解している。 【知識・理解】
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめについて、ノートを見返しながらかう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「簿記で現金として扱われるもの」、「現金は、資産の勘定であること」、「現金過不足は実際有高に合わせること」の3つを、本時の学習のポイントとして生徒に伝える。